

一般国道9号（東伯・中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県東伯郡琴浦町

南原千軒遺跡

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所



SI5 石囲炉 (北東から)



(側面)



(正面)



(側面)

土偶 脚部 (表土中出土)



SK2 遺物出土状況（南から）



SK2出土 和鏡



SK2 和鏡出土状況



SD1・6・7 (西から)



SD1・6・7土層断面 (西から)



SD7 土師器皿出土状況 (東から)



SB1 (南から)



SB1 P1 開元通寶出土状況 (西から)



SB2 P13 土層断面 (北西から)



SB1 P5 至道元寶出土状況 (北から)



SB2 P13 礎盤石検出状況 (北西から)

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道9号（東伯中山道路・名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、琴浦町にある南原千軒遺跡では、縄文時代の土偶や竪穴住居跡、中世の大規模な溝や掘立柱建物跡など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。発掘調査終了直前には、現地説明会を開催し多くの方々の御来場をいただいたところですが、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 有田博充

序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市（鳥取 島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯中山道路は、東伯郡琴浦町から西伯郡中山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成16年度は、「上伊勢第1遺跡」、「三保第1遺跡」、「久蔵谷遺跡」、「化粧川遺跡」、「八幡遺跡」、「中道東山西山遺跡」、「福留遺跡」、「湯坂遺跡」、「南原千軒遺跡」の9遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「南原千軒遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いです。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県教育文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成17年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 嘉 本 昭 夫

例 言

1. 本書は、国土交通省中国地方整備局倉吉国道河川事務所の委託により、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター東伯調査事務所が平成16年度に行った「一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業」の調査報告書である。
2. 本報告書に収載した南原千軒遺跡の所在地は以下のとおりである。
鳥取県東伯郡琴浦町（旧赤碕町）大字光字壱本松1 - 1他（1区）
字大加布毛64他（2区）
また、調査面積は2917.0m²である。
3. 本報告書で示す標高は、2級基準点H10 - 2 - 8（旧赤碕町、X：- 54683.946、Y：- 64490.818、H = 24.506）、3級基準点H10 - 3 - 12（旧赤碕町、X：- 54637.222、Y：- 64750.192、H = 21.330）を基点とする標高値を使用した。方位は、公共座標北を示す。なお、座標北に対し磁北は6°27'25"西偏、真北は0°22'35"東偏する。X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第 系 の座標値である。
4. 本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「大山」「赤碕」および「赤碕町都市計画図 1、3」（1/2500）を使用した。
5. 本報告にあたり、出土石製品の石材鑑定を赤木三郎氏に、SK13出土獣骨の鑑定を井上貴央氏に、出土鉄滓・鉄製品の整理指導を穴澤義功氏に依頼した。また、出土土器の胎土分析について白石 純氏より、出土玉材・石材の産地分析について藁科哲男氏より、玉稿を賜った。
6. 本報告にあたり、調査前・調査後航空写真撮影、基準点測量、自然科学分析の一部を業者に委託した。
7. 本報告書に使用した遺構実測図は、調査担当者および作業員が作成したものを整理作業員が浄書した。遺物実測図は、調査担当者および整理作業員が作成、浄書した。なお、土器、石器、鉄製品の一部について、実測および浄書を業者に委託した。
8. 本報告書に使用した遺構・遺物写真は、航空写真を除いて調査担当者が撮影した。
9. 本報告書の執筆・作成は、君嶋俊行、西川雄大、山根 航、牧本哲雄が分担し、目次と各文末に文責を記した。編集は君嶋が行った。
10. 出土遺物、図面、写真等は、鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 現地調査および報告書作成にあたり、下記の方々に御指導、御協力をいただいた。記して謝意を表する次第である。

赤木三郎、穴澤義功、池澤俊幸、伊藤正人、井上貴央、今村啓爾、岩崎紅美、岩田文章、大賀克彦、大野 薫、角田徳幸、木田 真、小池伸彦、小林義孝、酒井雅代、白石 純、杉山 洋、高橋進一、中村芳雄、西尾克己、箱崎和久、東山信治、廣江耕史、藤本史子、松村恵司、松本岩雄、宮本正保、森岡秀人、安村俊史、山崎真治、山田康弘、山本信夫、米田克彦、渡辺貞幸（五十音順、敬省略）

凡 例

1. 本遺跡の遺物の注記に用いた略号は「ナンハラ」である。

2. 本報告書で用いた遺構、遺物の略号は以下のとおりである。

[遺構]

SI：竪穴住居跡、SD：溝、SB：掘立柱建物跡、SK：土坑・土壙、P：柱穴、ピット（小穴）

[遺物]

S：石器・石製品 C：銅製品 J：玉類

記号のないものは土器・土製品・陶磁器

丸数字は鉄製品、鉄関連遺物（第88～90図 鉄関連遺物構成図の構成 に対応）

3. 本報告書における実測図の縮尺は、特に断りのない限り以下のとおりである。

[遺構]

竪穴住居：1/60、1/80、掘立柱建物跡：1/80、土坑・土壙：1/40

[遺物]

土器・土製品・陶磁器：1/4、1/3、1/6、金属製品：1/1、1/2 石製品：1/1、1/3、1/4 玉類：1/1

4. 遺構実測図に用いたスクリーントーンおよび記号は、特に説明がない限り以下のものを表す。

■：土器・土製品出土位置 □：石器・石製品出土位置 ○：鉄製品、鉄関連遺物出土位置

■：地山 ▲：ケズリの方向（砂粒の動き）……：砥面・磨面の範囲

また、遺物実測図において、須恵器は断面黒塗り、それ以外の土器・土製品は白抜きで表現した。

5. 遺物の法量記載における数値は最大値であり、○は推定復元値、□は現存値を示す。

6. 掘立柱建物跡の遺構番号は、調査時と本報告において以下のように変更している。

（旧）SB 1、SB 2 （新）SB 1、（旧）SB 3、4 （新）SB 2

7. 本書における土器類の分類・編年・年代観は基本的に以下の文献に拠る。

清水真一 1992 「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社

小口英一郎・北島大輔・原あづさ 2004 「八橋第8・9遺跡における6～7世紀の土器編年」

『八橋第8・9遺跡』鳥取県教育文化財団

足立克己・丹羽野裕 1984 「第6章 まとめ（3）遺物」『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会

巽淳一郎 1979 「2 土器類」『伯耆国庁跡発掘調査概報（第5・6次）』倉吉市教育委員会

横田賢次郎・森田勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4、

九州歴史資料館

八峠 興 2004 「山陰の中世土器に関する覚書」『中近世土器の基礎研究』、日本中世土器研究会

目次

巻頭写真図版

序

序文

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯	(君嶋) 1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と方法	2
第3節 調査体制	4
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	(牧本) 5
第2節 歴史的環境	(牧本) 6
第3章 発掘調査の成果	11
第1節 遺跡の立地と層序	(君嶋) 11
第2節 縄文時代の調査成果	14
(1) 概要	(君嶋) 14
(2) 竪穴住居跡	(君嶋) 14
第3節 弥生時代の調査成果	17
(1) 概要	(君嶋) 17
(2) 溝	(君嶋) 17
(3) 土坑	(君嶋・山根) 21
第4節 古墳時代の調査成果	26
(1) 概要	(君嶋) 26
(2) 竪穴住居跡	(君嶋・西川) 26
(3) 溝	(山根) 32
第5節 古代・中世の調査成果	34
(1) 概要	(君嶋) 34
(2) 竪穴住居跡	(君嶋) 34
(3) 掘立柱建物跡	(西川) 37
(4) 溝	(西川・山根) 42
(5) 土坑	(君嶋・西川・山根) 50
第6節 ピット群	(山根) 63
第7節 遺構外出土の遺物	(君嶋) 69
第8節 鉄関連遺物	(君嶋) 70
第4章 自然科学分析の成果	90
第1節 南原千軒遺跡SK13出土動物骨の放射性炭素年代測定	(株式会社 加速器分析研究所、君嶋) 90
第2節 南原千軒遺跡出土土器の胎土分析	(白石 純) 92

第3節	南原千軒遺跡出土サヌカイト剥片の産地分析	(藁科哲男)	96
第4節	南原千軒遺跡出土碧玉・ヒスイ製玉材の産地分析	(藁科哲男、(有)遺物分析研究所)	105
第5章	考察		129
第1節	南原千軒遺跡における縄文時代の遺構・遺物について	(君嶋)	129
第2節	南原千軒遺跡における弥生時代の玉作について	(山根)	131
第3節	南原千軒遺跡SK2の出土遺物について	(西川)	134
第4節	南原千軒遺跡の掘立柱建物について	(西川)	136
第5節	南原千軒遺跡における中世初頭の鉄生産について	(山根)	139
第6節	南原千軒遺跡出土の古代・中世の土器について	(君嶋)	140
第7節	南原千軒遺跡と勝田荘	(君嶋)	143
	土器・土製品観察表		147
	石器・石製品観察表		156
	玉類観察表		156
	銅製品観察表		156
	写真図版		
	報告書抄録		

挿 図 目 次

第1図	調査区周辺地形図	1	第23図	SI 1	27
第2図	遺跡位置図	5	第24図	SI 1 出土遺物	27
第3図	琴浦町の主要遺跡分布図	7	第25図	SI 3	28
第4図	調査区全体図	9	第26図	SI 3 出土遺物	28
第5図	調査区周辺の小字名	11	第27図	SI 6	29
第6図	調査区内土層断面図	13	第28図	SI 6 出土遺物(1)土器	30
第7図	SI 5	15	第29図	SI 6 出土遺物(2)石器、鉄製品	31
第8図	SI 5 出土遺物(1)土器	15	第30図	SI 6 周辺出土遺物	31
第9図	SI 5 出土遺物(2)石器	16	第31図	SD10	33
第10図	弥生時代遺構分布図	17	第32図	SD10出土遺物	33
第11図	SD 2・3	18	第33図	古代・中世遺構分布図	34
第12図	SD 2・3 出土遺物(1)土器	19	第34図	SI 2	35
第13図	SD 2・3 出土遺物(2)石器、玉類	20	第35図	SI 2 出土遺物	36
第14図	SK 4	21	第36図	SI 4	36
第15図	SK 4 出土遺物	22	第37図	SB 1 出土遺物	37
第16図	SK16	23	第38図	SB 1	38
第17図	SK16出土遺物	23	第39図	SB 1 土層断面図	39
第18図	SK20	24	第40図	SB 2	40
第19図	SK20出土遺物	24	第41図	SB 2 土層断面図	41
第20図	SK23	25	第42図	SB 2 出土遺物	41
第21図	SK23出土遺物	25	第43図	SD 1・6・7	43
第22図	古墳時代遺構分布図	26	第44図	SD 1・6 出土遺物	45

第45図	SD 7 出土遺物	46	第86図	遺構外出土の遺物 (1)	68
第46図	SD 4	47	第87図	遺構外出土の遺物 (2)	69
第47図	SD 4 出土遺物	48	第88図	鉄関連遺物構成図 (1)	71
第48図	SD 5 ・ 8	49	第89図	鉄関連遺物構成図 (2)	72
第49図	SD 5 ・ 8 ・ 9 出土遺物	49	第90図	鉄関連遺物構成図 (3)	73
第50図	SD 9	50	第91図	鉄関連遺物 (1)	77
第51図	SK 1	51	第92図	鉄関連遺物 (2)	78
第52図	SK 1 出土遺物	51	第93図	鉄関連遺物 (3)	79
第53図	SK 2	51	第94図	鉄関連遺物 (4)	80
第54図	SK 2 出土遺物	52	第95図	鉄関連遺物 (5)	81
第55図	SK 3	53	第96図	須恵器の産地推定 (K-Ca)	94
第56図	SK 5	53	第97図	須恵器の産地推定 (Rb-Sr)	94
第57図	SK 6	53	第98図	須恵器の産地推定 (Ti-Ca)	95
第58図	SK 3 ・ 5 ・ 6 出土遺物	53	第99図	須恵器の産地推定 (Zr-Sr)	95
第59図	SK 7	54	第100図	サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地	101
第60図	SK 7 出土遺物	54	第101図	花仙山産碧玉原石の蛍光 X 線スペクトル	120
第61図	SK 8	54	第102図	弥生 (続縄文) 時代の碧玉製、緑色凝灰岩製玉類の原材使用分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地	120
第62図	SK 9	55	第103図	南原千軒遺跡出土玉材の蛍光 X 線スペクトル	121
第63図	SK 9 出土遺物	55	第104図	碧玉原石のESRスペクトル	122
第64図	SK10	55	第105図	碧玉原石の信号 () のESRスペクトル	123
第65図	SK10遺物出土状況図	56	第106図	南原千軒遺跡出土玉材の信号 () のESRスペクトル	125
第66図	SK10出土遺物	56	第107図	ヒスイ原産地およびヒスイ製玉類使用遺跡分布圏	126
第67図	SK11	57	第108図	ヒスイ原石の元素比值Zr/Sr対Sr/Feの分布および分布圏	126
第68図	SK12	57	第109図	ヒスイ原石の元素比值Ca/Si対Sr/Feの分布および分布圏	127
第69図	SK11 ・ 12出土遺物	57	第110図	ヒスイ原石の元素比值Na/Si対Mg/Siの分布および分布圏	127
第70図	SK13	58	第111図	南原千軒遺跡出土硬玉製玉材の蛍光 X 線スペクトル	128
第71図	SK14	58	第112図	鳥取県出土の土偶および類例	130
第72図	SK13 ・ 14出土遺物	58	第113図	南原千軒遺跡出土の玉作関連遺物	132
第73図	SK15	59	第114図	SK 2 出土和鏡背面復元図および部分名称	134
第74図	SK18	59	第115図	山吹双鳥鏡の類例	134
第75図	SK15 ・ 18出土遺物	60	第116図	SK 2 出土輪状鉄製品	135
第76図	SK19	60			
第77図	SK21	61			
第78図	SK21出土遺物	61			
第79図	SK22	61			
第80図	SK22出土遺物	61			
第81図	SK24	61			
第82図	SK17 ・ 25	62			
第83図	ピット出土遺物	63			
第84図	ピット分布図 (1)	66			
第85図	ピット分布図 (2)	67			

第117図	島根県吉佐山根1号墳SK01出土鉄製品	135	第121図	奈良県春日大社着到殿平面図および立面図	138
第118図	島根県吉佐山根1号墳SK01遺物出土状 況図	135	第122図	小皿の分類	141
第119図	SB1柱間寸法復元図	137	第123図	中世土器の変遷	141
第120図	SB2柱間寸法復元図	138	第124図	空間構成変遷図	144
			第125図	勝田川流域の小字界と条里地割復元案 ...	146

挿 表 目 次

第1表	SI5ピット計測表	14		比分析結果	103
第2表	SI1ピット計測表	27	第19表	南原千軒遺跡出土サヌカイト剥片の原材 産地分析結果	104
第3表	SI3ピット計測表	28	第20表	各碧玉の原産地における原石群の元素比 の平均値と標準偏差値(他).....	115
第4表	SI6ピット計測表	29	第21表	南原千軒遺跡出土玉材の分析結果 ...	118
第5表	SI2ピット計測表	35	第22表	南原千軒遺跡出土玉材の原材産地分析結果	118
第6表	SB1ピット計測表	39	第23表	ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準 ...	119
第7表	SB2ピット計測表	41	第24表	南原千軒遺跡出土のヒスイ製玉材の元素 分析値と比量の結果	119
第8表	ピット計測表	64	第25表	南原千軒遺跡出土のヒスイ製玉材の原材 産地分析結果	119
第9表	鉄関連遺物集計表	74	第26表	鳥取県内の縄文時代竪穴住居跡	129
第10表	鉄関連遺物観察表	82	第27表	鳥取県内出土の土偶	130
第11表	SK13出土動物骨年代測定結果	91	第28表	鳥取県内の主な弥生時代玉作関連遺跡	133
第12表	散布図による南原千軒遺跡出土の7世紀 前半・中世須恵器の産地推定	92	第29表	銭貨出土掘立柱建物の類例	137
第13表	南原千軒遺跡出土土器の分析一覧表 ...	93	第30表	鳥取県内の中世製鉄関連遺跡	139
第14表	各サヌカイト(安山岩)の原産地におけ る原石群の元素比の平均値と標準偏差値 (他)	101	第31表	遺構別出土土器集計表	142
第15表	岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の 分類結果	103	第32表	土器・土製品観察表	147
第16表	和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原 石72個の分類結果	103	第33表	石器・石製品観察表	156
第17表	和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原 石21個の分類結果	103	第34表	玉類観察表	156
第18表	南原千軒遺跡出土サヌカイト剥片の元素		第35表	銅製品観察表	156

写 真 目 次

写真1	2区表土除去作業風景	3	写真7	SK13 鯨骨出土状況	58
写真2	調査風景	3	写真8	SK17(古)礫検出状況	62
写真3	SI6 甕(66)出土状況	32	写真9	SK17(新)礫検出状況	62
写真4	SI6 土師器甕(73)出土状況	32			
写真5	SK12 土器出土状況(1)	58			
写真6	SK12 土器(224)出土状況(2).....	58			